

# 1部 シンポジスト

## プロフィール

### 中村薫（なかむら かおる）

産科医師・医学博士 一般社団法人日本助産所会 嘱託医師

1960年 沖縄県生まれ

山口大学医学部卒業後、山口県 小郡第一総合病院 産婦人科勤務

福岡県北九州市 小倉記念病院勤務。

2001年北九州市でなかむら産家医院開院。

医療行為を可能な限り控え、自然なお産と母子の絆を深める事を目指した。

2018年 閉院。

2019年 福岡県新水巻病院周産期センター勤務 副センター長に就任。

2020年 退職。現在沖縄県共同病院勤務。勤務医として働き、若手医師の育成に取り組んでいる。

一般社団法人日本助産所会の嘱託医師に就任し、助産師向け研修会講師、助産所業務のサポート

相談役として尽力中。



## 講演内容

### 優しいお産を取り戻すために ～お産の現状と今後の方向性について～

現在の産科医療を取り巻く状況は、医師高齢化による産科診療所の閉院、地方の一般病院においては医師偏在により産科医師確保が難しくなり分娩取り扱いを中止、助産院においては嘱託医の閉院に伴う連鎖閉院などが起きており、まさに一次産科医療の崩壊中の様相を呈している。

その結果、産婦さんが産む施設の選択に難渋するばかりでなく、あげく無介助分娩を選択する方が増加している事も現実です。

この状況は早急に対策を立てなければならない喫緊の課題なのですが、そのためには、これまで産科医師、助産師を含め産科医療全体が抱えていた問題点を明らかにし、それを解決した上での対策でなければならないと考えています。

お産とは分かりやすく言うと「命がけの生理現象」で、その命がけの部分を医療が受け持ち、生理現象の部分を助産師が受け持ち、両者が協調体制を取って産婦を支えることが理想だと考えますが、現状はその役割分担と協調体制は決して効率的に機能していないばかりか、助産院と医療機関の間には分断さえ起きていると言わざるおえない状況です。

そうなってしまった要因の一つには過重労働を含め産科医師にのしかかる様々な重圧があります。

また、助産師の側にも様々な問題と苦悩があります。

そのあたりの解説と解決策を含め今後の方向性を示したいと思います。

ただし、助産師が生理現象の部分をしっかりと受け持つことが重要な鍵となる事はここでも強調しておきたいと思っています。

優しい人達に囲まれたお産は、たとえ医療行為があったとしても母性を育みます。

そして優しいお産を取り戻すためには、医師と助産師に優しい医療体制を作る事が実は一番の近道です。

なぜなら「人間とは優しさを受け取ると、それを他人へ与える生き物」だからです。

1次産科医療が崩壊中の今こそ、その医療体制を作る絶好の機会です。

## お申し込み 下記リンクよりお申し込み下さい



医療従事者専用お申し込みページ

一般専用お申し込みページ

がございます。

お間違えないようお願い下さい。

お問い合わせ先  
(一社) 日本助産所会 事務局

**093-282-3476**

[jima20201214@gmail.com](mailto:jima20201214@gmail.com)

後日録画  
配信付き

運営協力：**memid**

- 本シンポジウムはmemidのサービスを利用しております。そのためお申し込みにはmemid会員登録が必要となっております。
- Zoomライブ配信で配信トラブルにより視聴できなかった場合は、後日の録画配信をご視聴ください。その場合でも返金等の対応はいたしません。ご了承ください。